

1月「Norddeutsche Tristesse」 アントニア・シュルト

ドイツの冬はとても暗い季節です。クリスマスやお正月のおかげで短い間その事実が忘れられますが、1月に入ると祭日の暖かい記憶が段々頭から離れ、特に北ドイツの冬の寂しさはもう無視できなくなります。自然光は朝10時から午後3時半までで、日差しで体が温められる感覚はもう覚えられないほど、太陽の不在で苦しむ季節です。

ドイツの冬から逃げて、日本に来たと一度冗談で言ったことがあって、もちろん逃げた訳ではないですが、少しだけ本音が入っていたかもしれません。南九州でも冬は冬で寒い日もあります。ドイツの冬と比べれば、あまり恐ろしいものではありません。

ここでは太陽がちゃんと顔を出してくれるからです。

